

2021(令和3)年度

鳥取県

NIE実践報告書



教育に新聞を
Newspaper in Education



鳥取県NIE推進協議会

目次

- 巻頭言「NIEの輪を広げていきたい」…………… 1
鳥取県NIE推進協議会長(米子工業高等専門学校教授) 加藤 博和
- 2021年度鳥取県NIE実践指定校の報告
 - ① 会見小学校の取り組み …………… 2
南部町立会見小学校 校長 森川 寿子 教諭 勝部 陽子
 - ② 社会に開くNIE ～新聞で視野を広げ、課題を見つける～ …………… 9
鳥取市立桜ヶ丘中学校 教諭 平尾 尚子
 - ③ 岩美高等学校NIEの取り組み …………… 21
鳥取県立岩美高等学校 教諭 栗原由紀子
 - ④ 湯梨浜学園の取り組み …………… 25
湯梨浜学園中学校・高等学校 教諭 大西 圭
- 第26回NIE全国大会・札幌大会(オンライン開催)に参加して …………… 30
 - 歴史観養う新聞の価値
鳥取県NIE推進協議会長(米子工業高等専門学校教授) 加藤 博和
 - 望まれる新聞データ化
鳥取県NIE推進協議会アドバイザー 岩井 克之
 - 生きた言葉に出会える
南部町立会見小学校 教諭 勝部 陽子
 - 地域知る一番の情報源
鳥取市立桜ヶ丘中学校 教諭 徳永 絵里
 - 時代の姿ありのままに
鳥取県立岩美高等学校 教諭 栗原由紀子
 - つながりに気付き学ぶ
湯梨浜学園中学校・高等学校 教諭 大西 圭
- 鳥取県NIE推進協議会 会則 …………… 34
- 「出前授業」募集のご案内 …………… 36

NIE の輪を広げていきたい

鳥取県 NIE 推進協議会長

加藤 博和 (米子工業高等専門学校 教授)



2021 (令和3) 年6月の本協議会総会で、藤田会長の後を引き継ぎ、早1年たちました。その総会で、実践指定校4校に認定証を手渡したのが初仕事でしたが、各学校でどのような実践が行われたか。本報告書を読ませていただくのがとても楽しみです (この巻頭言を書いている時点では、各校の原稿に接していません)。

かくいう私も、高専の社会の一教員であり、13 (平成25) 年度と14 (平成26) 年度に実践指定校を経験したのですが、何か成果をあげなければと、プレッシャーも感じながらの2年間でした。

学校現場が多忙化する中、NIEに取り組まれるのは大変なことであり、皆さまの実践に敬意を表します。今年度の総会では、実践報告 (発表) の時間を拡大し、質疑応答なども交えるようにしてみました。報告書の行間や苦労話なども共有して、実践校での継続的な取り組みや他の学校への普及などに資すればと考えます。コロナ禍で、会場は遠くても、オンラインでの参加がニューノーマル (新常态) となりました。NIEの活動やその成果も、学校や自宅などからアクセスして見てもらえるようになればと思います。

会長に就任して早々、21年11月30日にANAクラウンプラザホテル米子 (米子市) にて、ITC-J カウンシル No. 7 第34期の集会に呼んでいただき、「NIE: 教育に新聞を ~新聞を楽しもう~」の演題で講演とグループワークを行いました。ITC-Jは、「リーダーシップや個人のコミュニケーション能力向上のための訓練、開発を高いレベルにおいて提供する組織」で、今回はNIE (新聞) をテーマにされました。グループワークでは、各自持参の一押しの新聞記事を各テーブルで紹介し合ってもらったのですが、どなたも熱心に取り組み、全体での発表も盛り上がりました。学校教育から生涯学習まで、NIEを縦糸に、いろんな布が織りなされると感じました。

私は、NIEを主権者教育に活用しています。アメリカ大統領選の際、「地理」の授業で、それを報じ、深掘りする複数の新聞記事を提示して、選挙の背景や同国の抱える課題などを客観的に理解することに利用しました。米子市長選・同市議補選でも新聞記事を用いて授業を行いました。自治体の選挙が近づくと、地元紙では“〇〇市の針路”といった企画ものを連載されるので、身近な地域の現状を知り、考え、判断する材料として、新聞は有用です。

主権者教育は、市民性教育 = Citizenship Education と呼ばれますが、それを新聞を使って行えば、Newspaper in Citizenship Education、“NICE”となります。私は、鳥取県の消費者教育の推進にも携わっていて、消費者教育は Consumer Education なので、こちらも新聞とのコラボで“NICE”になります。

これからも新聞を使って (試行錯誤しながら) ナイスな教育を実践し、NIEの輪を広げていきたいと思っています。

会見小学校の取り組み

南部町立会見小学校 森川 寿子
勝部 陽子

1 はじめに

本校は、2021（令和3）年度より2年間のNIE実践校として指定を受け、1年間取り組んできた。新聞を普段手にする機会が少ない児童に対して、まずは新聞に親しみを持ち、身近な存在として感じられるよう、さまざまな学習に新聞を取り入れたり、児童の目につくところに新聞記事を掲示したりするなどの取り組みに重点を置いてNIE教育を推進した。

2 実践内容

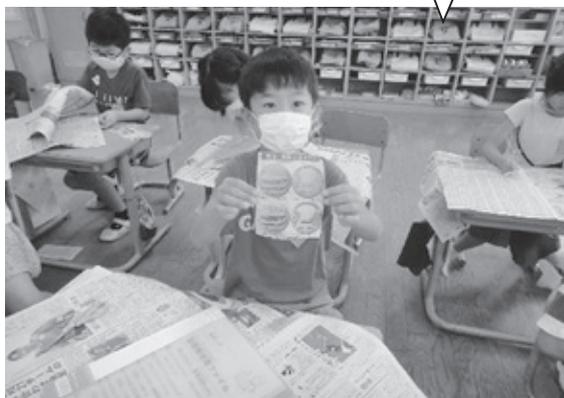
(1) 朝新聞 DAY

毎月第2・4金曜日を「朝新聞 DAY」とし、全校で朝読書の時間に新聞を読む活動を行った。中学年以上は、新聞を読んだり、読売新聞社が出しているワークシートに取り組んだりした。低学年は、気に入った写真を切り取って、クリアファイルに入れていく活動をしたが、特にオリンピックの時期には、金メダルの写真やオリンピックにかかわるカラー写真をとても喜んで切り取り、どんどんクリアファイルに集める様子が見られた。

6年生が読んでいる様子



2年生の様子



1年生の様子



(2) 各学年の取り組み

① 1年生

図工の「つなげてつるして」の時間に、新聞を切ったりちぎったりして、テープやのりで長くつなげていく活動を楽しんで行った。どこまで長くつなげられるか、教室を出て学校一周するほどつなげることができた。



学活のお楽しみ会で、「雪合戦ではなく新聞紙合戦がしたい!」と子どもたちからのアイデアで、みんなで新聞紙を丸めて「新聞合戦」を行った。新聞なので当たっても痛くなく、子どもたちも大喜びで新聞をたくさん丸めては投げてととても盛り上がった。



生活科では、節分の日に節分の豆まきの代わりに新聞紙を丸め、それぞれ児童が描いた鬼のお面に向かって「鬼は外! 福は内!」と投げて、自分の中の「鬼退治」をして楽しんだ。



② 2年生

図工「しんぶんしとなかよし」の学習で、新聞紙を「くしゃくしゃにしたり、おったり、やぶったり、くるくるまいたり、つなげたり」と、どんどんひらめきを広げさせて新聞紙でいろいろなものを制作し、生き生きと楽しんで学習できた。くしゃくしゃの新聞を体にかけて「新聞ってあったかい!」「冬にいいね!」と言っていた児童もいた。



③ 3年生

朝新聞 DAY の時間に、自分のお気に入りの記事の写真を切り取って、紙に貼り、自分で見出しや説明の文章を書いていた。好きな野球選手のこと、鳥取県の観光スポット、日野町のおしどりのことなど、それぞれ興味のある記事の写真を切り取って見出しも考えることができた。



④ 4年生

総合の「会見のじまん大発見！」の学習で、地域の発展のために尽くした吉持家の偉業「佐野川用水」について見学したことや学んだことを、写真を貼ったり調べたことをまとめて記事にしたりして、新聞を作成した。記事を書く場所や内容を分担してレイアウトを考えて作成することができた。



⑤ 5年生

国語科「新聞記事を読み比べよう」の学習のまとめとして、鳥取県NIE推進協議会に依頼して新日本海新聞社の平塚千遠記者に来ていただき、出前授業をしていただいた。授業では、新聞記事の見方、書き方、写真の選び方など学ぶことができ、児童もノートや新聞にメモをしたりまとめたりしながら話を聞くことができた。



⑥ 6年生

修学旅行に行ったことを、新聞にまとめた。見学した先でもらったパンフレットや資料などを見ながら、自分が伝えたいことや心に残っていることの要点を絞り、写真や絵などを入れながら記事を書くことができた。



(3) 図書委員会の取り組み

図書委員会では、曜日ごとの当番活動として、図書委員が毎日小学生新聞を読んで、その記事の中から注目するニュースを選んで紹介している。選んだ記事を図書館前に掲示し、またその切り抜きをファイルに入れて保存し、いつでも見ることができるようになっている。



(4) 校内での新聞記事の掲示

①児童が読みやすいように、朝日小学生新聞を階段や踊り場など、目につくところに掲示した。



②階段や踊り場に、地元・南部町のことや身近な地域のことが紹介された日本海新聞の記事を掲示した。



(5) NIE コーナーの設置

毎月届く4社の新聞を、児童玄関に児童が読み比べできるように設置した。読み終わった新聞は下のBOXに入れておき、新聞が必要な学級で自由に使うことができるようにした。



(6) その他の取り組み

2年生の会社活動（係活動）での「お手紙新聞会社」。



職員室の印刷室にも、大人のNIEコーナーを設置した。

新聞の感想を書いた5年生の自学ノート



3 実践を振り返って

1年目の取り組みとして、まずは子どもたちが「新聞に親しむ」ことを目標に、さまざまな活動においてNIEということ意識して取り組む中で、以前よりも教師も児童も新聞に目を通したり、手に取ったりする機会が増えたように思う。特に低学年が新聞を用いて遊んだり制作をしたりする活動は、とても生き生きとしており、新聞を身近なものとして感じる事ができた。上学年も、新聞というツールの仕組みについて理解を深めるとともに、自分の体験や学び、考えを効果的に表現するツールとしての良さ、便利さに気付く事ができた。

今後の課題として、学校全体の取り組みとしての意識の浸透と学習への積極的な活用があげられる。まず、NIE教育の年間計画を立てて全職員で共有し、さらには新聞を用いてたくさんの情報から必要なものを「読み取る力」や、思いを文章化して伝える「表現力」を養うことができるように学習の中に組み込み、児童の学力向上にもつなげていけるよう計画していきたい。

社会に開く NIE ～新聞で視野を広げ、課題を見つける～

鳥取市立桜ヶ丘中学校 平尾 尚子

1 はじめに

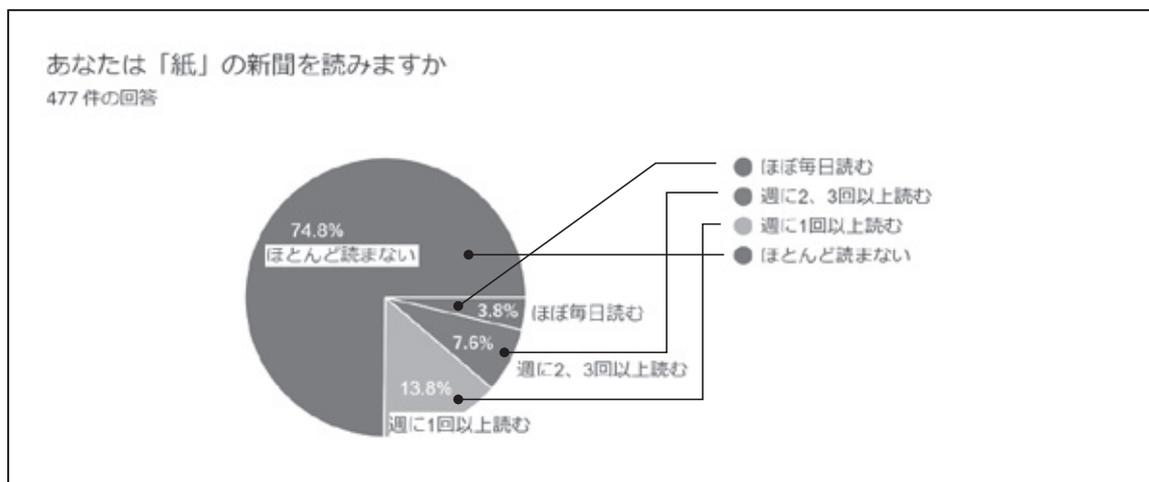
(1) 本校の概要

本校は鳥取市中心部からほど近くに位置し、新旧住宅地、工業団地、農場・牧場など多様な特徴を併せ持った地域にある。1学年5クラスの中規模校で、各種行事に取り組むには適当なクラス数であるが、学年単位、学校単位で生徒数分の教材を準備するには、計画と工夫が必要であり、NIEについても同様である。短時間グループアプローチ「桜咲タイム」の時間を毎週水曜日に設けて7年が経ち、教科の授業の中でもコミュニケーション活動がさかんである。生徒たちはスムーズに意見を交換することができる。

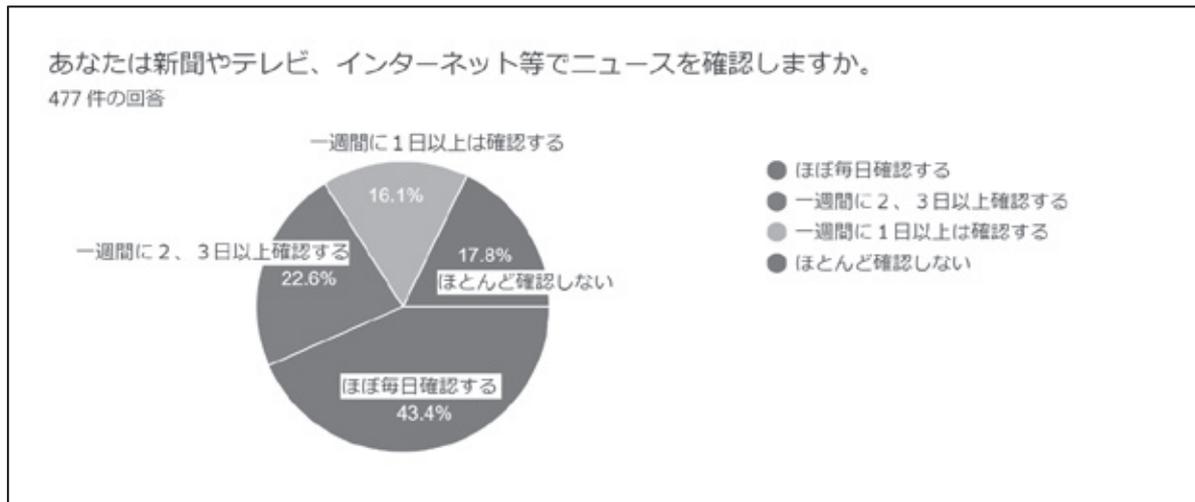
(2) 本校の課題

2021（令和3）年7月調査では、全校生徒515人を対象にアンケートを行い、477件の有効回答数を得た。新聞を「ほぼ毎日読む」と答えた生徒は極めて少なく、3.8%にとどまる（グラフ1）。しかし、一日のうちに何らかの形でニュースに触れている生徒は全体の43.4%、週に2～3回、または1回以上ニュースに触れると答えた生徒は合わせて38.7%であり、およそ8割近くの生徒が一週間のうちにいずれかのメディアによって情報を得ていることが分かる（グラフ2）。新聞を購読している家庭は68.8%（グラフ3）、生徒が社会に触れるツールとしては圧倒的にテレビが多く67.1%、次いでスマートフォンやタブレットを用いたネットニュース、SNSや動画による情報収集も少なくない（グラフ4）。社会に対する関心は、「ある」「どちらかといえばある」を合わせると74.2%である（グラフ5）。一方で、最も関心があるニュースは「新型コロナウイルス」、次いで「スポーツ」、「芸能」、「オリンピック」となっており、その後に「政治・経済」、「社会・地域」と続く（グラフ6）。社会に関心はあるが、一部の事象に偏っている感がある。

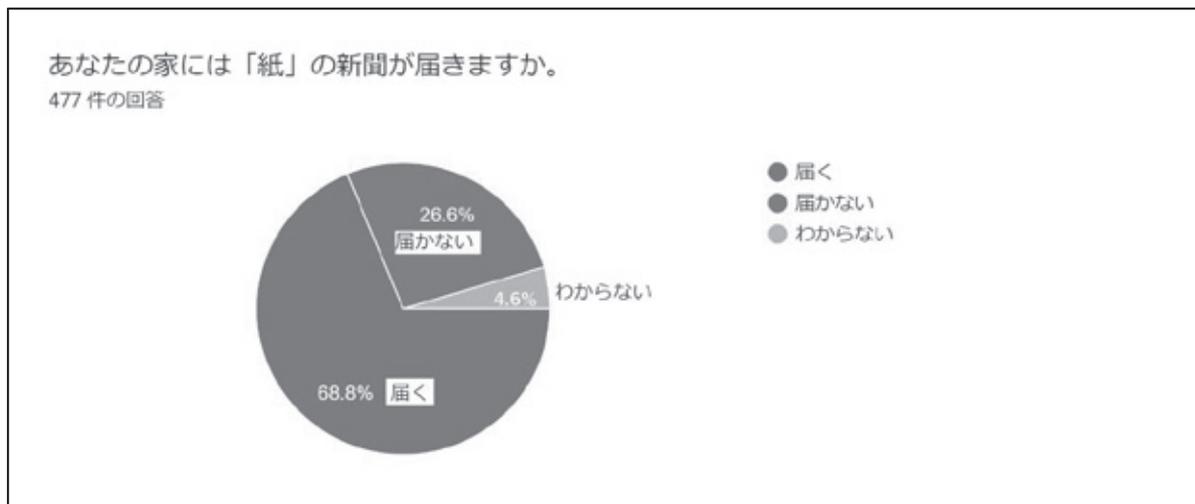
グラフ1



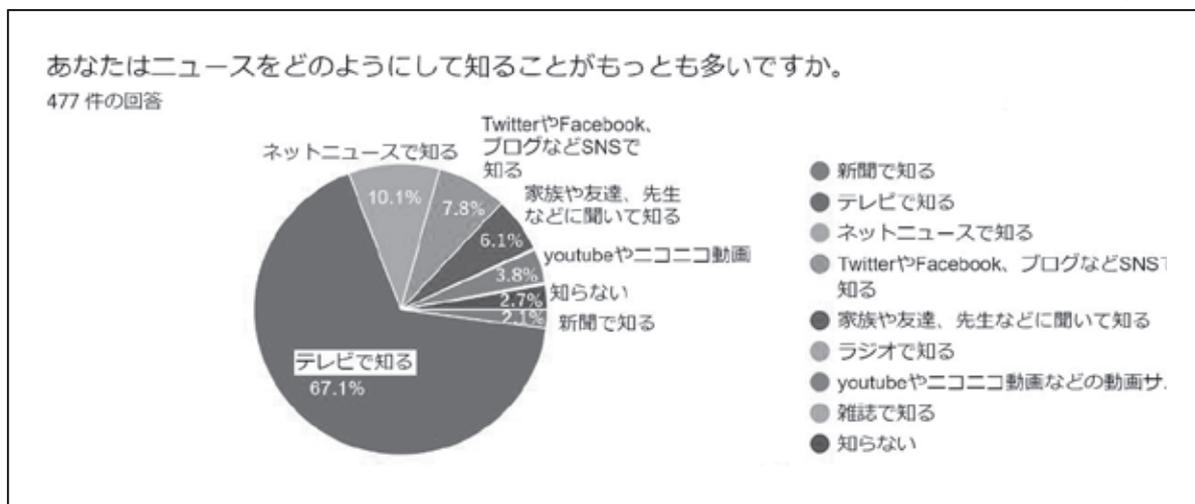
グラフ 2



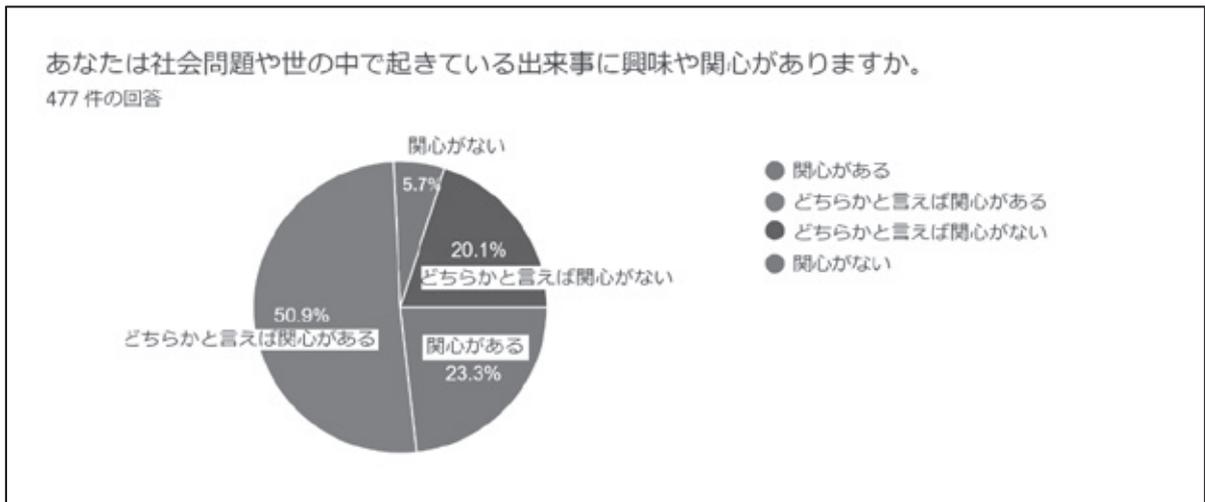
グラフ 3



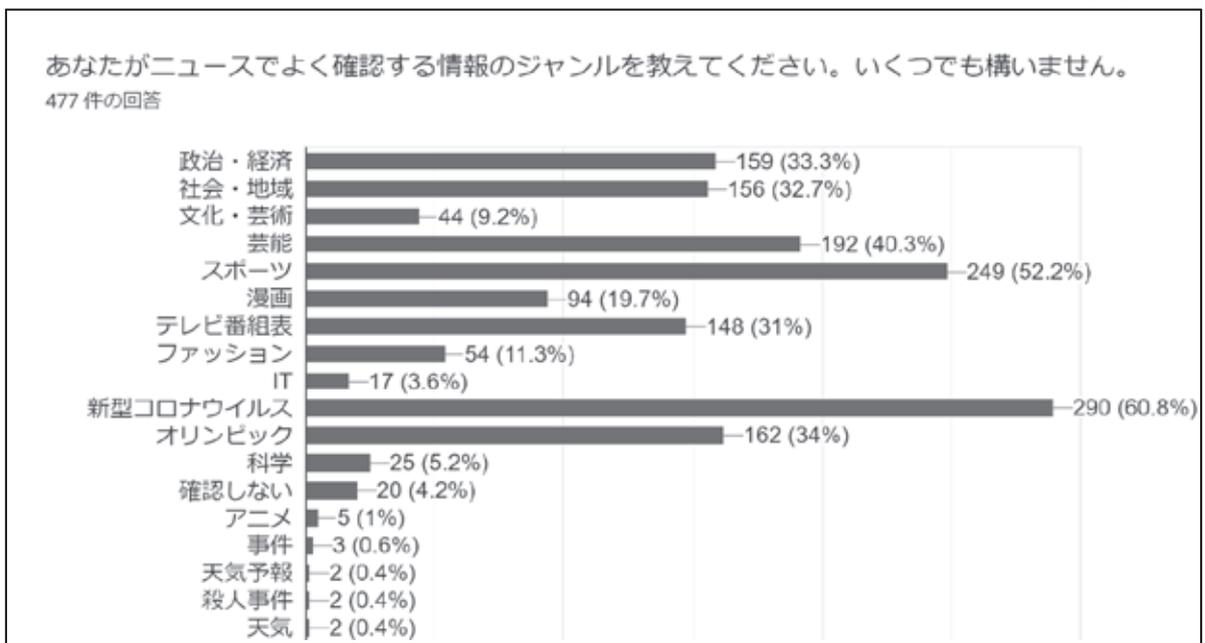
グラフ 4



グラフ 5



グラフ 6



(3) 本校の目標

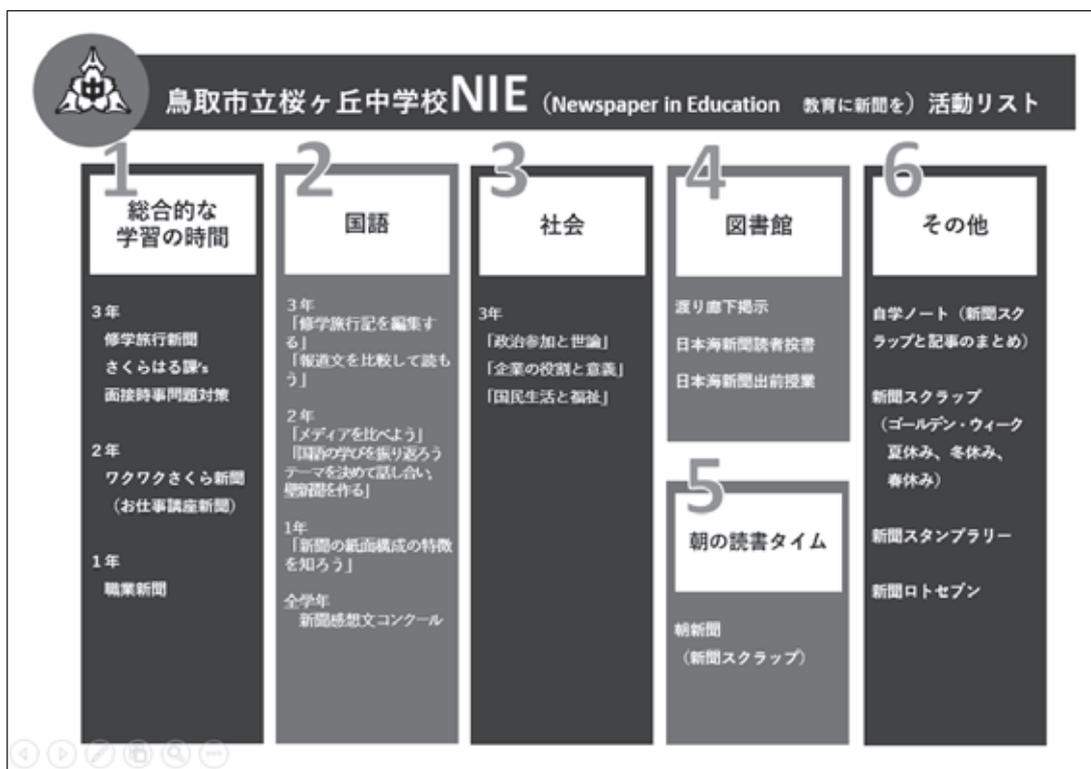
本校生徒の以上のような現状を踏まえ、一覧性のある新聞というツールを通して、世の中のさまざまな事象を捉え、視野を広げる中で、身近な生活と実社会との関連性を感じさせ、実社会で起きる様々な出来事を我が事として捉えさせること。また、中学生として、近い将来社会に出ていく者としてふさわしいものの見方や考え方を養うことを目標として、NIEの活動に取り組んだ。

2 実践の内容

(1) 校内体制

まず、校務分掌として「NIE推進部」を置いた。各学年、教務に一名の推進委員を置き、学校司書と計5名で推進に当たった。学年担当は各学年図書委員をはじめ、学年生徒の指導に当たり、朝新聞のとりまとめや、各学年廊下に新聞スクラップの掲示などを行った。学校司書は学校図書館や全校が通る渡り廊下、

文化祭などに企画コーナーの設置を行った。教務担当は司書教諭として、図書委員会への出前授業や新聞投稿、朝新聞の補助などを行った。各々分担をし、全校体制でNIEの推進に努めた。



職員会議で活動リストを提示し、一年間の取り組みを全職員に「見える化」

(2) 図書館

校舎内の廊下に積極的に新聞掲示を行っている。特に渡り廊下「桜通り」は、「新聞通り」として各紙を掲示するとともに、その時々で視点でテーマを設け、関連記事を集めて掲載している。また、記事と共に、関連図書も紹介・展示する。職員が推薦する記事や、本校が取り上げられた記事なども掲示し、生徒が足を止めて見入ることもあった。



「桜通り」や教室前廊下の新聞掲示コーナーと、毎日届く新聞を読む生徒ら

(3) 新聞提供を活用した読み比べ

常時展示している日本海新聞、読売新聞に加えて、NIEの新聞提供事業で提供された新聞を並べ、全7紙を読み比べることができるようにした。東京2020、ロシアのウクライナ侵攻は各紙が一面に取り上げ、関連記事も各社が多角的に分析していた。また、関連図書も併せて紹介し、新聞で得た今現在の情報を、生徒の関心に応じて、より深く、より客観的に調べられるようにした。



新聞7紙の展示コーナー



集まった新聞は図書委員が分担して新聞社ごと、日付ごとに仕分けする



世界に激震が走ったロシアのウクライナ侵攻を伝えるトップ記事は、生徒が最も目にとめやすい生徒玄関にまずは掲示。その後、桜通り（新聞通り）に移動した

(4) 各種新聞コンクールや弁論・作文コンクール受賞と新聞掲載

図書委員会の読者投稿のほか、全校生徒に呼びかけ、日本新聞協会の「いっしょに読もう！新聞コンクール」、日本海新聞の「児童生徒新聞感想文コンクール」に応募した。また、「鳥取県優勝弁論大会」でもSDGsをテーマにした弁論を発表した。いずれの作品にも、新聞をもとに社会に目を向け、知見を深めようとする姿が表れており、優れた作品として評価された。

これらの受賞は各新聞にも取り上げられ、それを掲示することで校内での生徒の注目度も高まり、再度、新聞や社会の課題に目を向ける契機となった。友人が掲載された記事を改めて読んでみようとする姿も見られ、文武併進を印象づけられたのも、新聞の効果といえる。



生徒の受賞を伝える新聞記事を、各種表彰記録と共に掲示した

(5) 朝新聞と新聞スクラップ

20（令和2）年度は、試みとして一度取り組んだ朝新聞であったが、21（令和3）年度は長期休業等を除き、毎月の取り組みとした。読んだ新聞はワークシートにスクラップして、廊下に掲示した。

新聞スクラップはゴールデンウィーク、夏休み、冬休みなど長期の休業中にも実施する学年もある。積み重ねるうちに生徒が選ぶ新聞記事の種類や、新聞から得た考えのまとめ方などに変化がみられるようになった。



朝新聞の様子



週末課題として提出された新聞スクラップ「今日のニュース」の掲示

(6) NIE 講演会

図書委員会では、委員会活動の一環として新聞への投稿を長年続けている。今年度は新日本海新聞社の学芸担当デスク・植田紀子記者を迎え、「やまびこ」投稿を目指して投稿文の書き方について講義を受けた。図書委員の投稿文が掲載された新聞は、上記の「桜通り」に掲示した。その後も委員会活動として定期的に新聞投稿を続けることができた。



新日本海新聞社学芸担当デスク・植田紀子記者（左）と、同氏の講演を聞く前期図書委員（右）

(7) 新聞イベント

生徒が新聞に楽しく親しむイベントとして、図書委員会主催で「新聞スタンプラリー」と「新聞ロトセブン」を企画した。「新聞スタンプラリー」は校内に掲示された新聞記事を読み、クイズに答えてスタンプを集めるもの、「新聞ロトセブン」は、新聞7社のうち、一日に何社のトップニュースが同じ題材を扱うか予測するというものである。

新聞スタンプラリーでは、1年生が3年生の図書委員に、新聞記事を巡る質問をし、一緒に答えを探すなどの微笑ましい光景が見られた。「新聞ロトセブン」の結果発表は、毎日の給食の放送で行い、コロナ禍で黙食しなければならない生徒たちの、しばしの憩いの時間となった。いずれもゲーム感覚で楽しみながら新聞に興味を持たせるきっかけ作りができた。

新聞
LOT 7
ロトセブン

1. 日本海新聞 2. 山陰中央新報
3. 毎日新聞 4. 読売新聞
5. 朝日新聞 6. 日本経済新聞
7. 産経新聞

**記念品が
当たる!**

**トップニュースの見出しの内容
一日最大何紙が同じになるか大予想!**

★参加方法★

- ①表の1～7の番号を、日付ごとに1つだけ選んで○を付けます。
- ②記入は必ずボールペンやネームペンなど、消せないペンで書きます。
- ③1日1つずつ、合計5つの○を書いたら完了です。
- ④図書委員に提出したら、図書委員がチェックして返します。
- ⑤書いていない日や、1日に2つ以上の○があると無効です。
- ⑥校通りの新聞掲示や、毎日のお昼の放送で確認します。
- ⑦5日間の予想が全部当たると当選です。この用紙を図書委員に提出してください。
- ⑧全部当たらなかった場合も、全体の当選者の数によっては繰り上げ当選の可能性があるので、この用紙は発表まで取っておきましょう。

| 年 組 番 氏 名 | | | | | | | |
|-----------|-----------------|---|---|---|---|---|---|
| 日付 | 数字を選んで○を付けましょう。 | | | | | | |
| 12月6日(月) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 12月7日(火) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 12月8日(水) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 12月9日(木) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 12月10日(金) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

桜ヶ丘新聞ロトセブン応募票



新聞スタンプラリー掲示

(8) 教科における指導【国語】

2年生の授業では、NIE実践校に届けられる最大7紙の新聞と、新日本海新聞社のゲストティーチャー制度を利用した授業を行った。オリンピック開幕記事は、日本海、山陰中央、読売、毎日、朝日、日経、産経の7紙とも、1面に掲載されており、見出し、写真の扱い、記事の内容、記事の大きさなどから各紙の報道姿勢や伝え方の意図について考え、グループで意見を伝え合った。その後、ゲストティーチャーより、オリンピック報道に関わる社としての方針や、日々の報道の在り方などについて講義を受けた。机上の学習が現実と結びついていることを実感し、生徒たちは関心をもって話を聞いていた。



タブレットに送信された7紙の記事を読み、特徴を分析する



新日本海新聞社読者販売局 参与・徳田真吾氏、読者センター長・岡村博氏、記者・石井義則氏によるゲストティーチャー講義（写真は徳田参与）

新聞記事を比較しよう
～オリンピック開幕の記事を比べて読む～

内容目標 新聞二紙を比較して、それぞれの特色から編集の意図を分析することができる。
態度目標 自分の考えを説明することができる。

① 二紙を選び、特徴の違いを考えよう。

② 日本海新聞 新聞

③ 二紙の特色や、二紙を比べてみよう。

④ 新聞の二紙に特色を比べて、日本海新聞の特色を挙げてみよう。

⑤ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑥ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑦ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑧ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑨ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑩ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑪ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑫ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑬ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑭ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑮ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑯ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑰ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑱ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑲ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

⑳ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉑ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉒ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉓ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉔ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉕ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉖ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉗ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉘ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉙ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉚ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉛ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉜ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉝ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉞ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㉟ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊱ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊲ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊳ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊴ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊵ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊶ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊷ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊸ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊹ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊺ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊻ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊼ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊽ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊾ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

㊿ 新聞の特色や、二紙を比べてみよう。

【比較のポイント】…重点の置き方
同じ事実でも、発信者がどの要素を強調するかによって、情報の伝わり方が大きく変わる。

見出しの付け方 記事の内容 記事の大きさ 写真の選び方

① 内容目標 A・B・C
② 態度目標 A・B・C

③ 内容目標 A・B・C
④ 態度目標 A・B・C

⑤ 内容目標 A・B・C
⑥ 態度目標 A・B・C

⑦ 内容目標 A・B・C
⑧ 態度目標 A・B・C

⑨ 内容目標 A・B・C
⑩ 態度目標 A・B・C

⑪ 内容目標 A・B・C
⑫ 態度目標 A・B・C

⑬ 内容目標 A・B・C
⑭ 態度目標 A・B・C

⑮ 内容目標 A・B・C
⑯ 態度目標 A・B・C

⑰ 内容目標 A・B・C
⑱ 態度目標 A・B・C

⑲ 内容目標 A・B・C
⑳ 態度目標 A・B・C

㉑ 内容目標 A・B・C
㉒ 態度目標 A・B・C

㉓ 内容目標 A・B・C
㉔ 態度目標 A・B・C

㉕ 内容目標 A・B・C
㉖ 態度目標 A・B・C

㉗ 内容目標 A・B・C
㉘ 態度目標 A・B・C

㉙ 内容目標 A・B・C
㉚ 態度目標 A・B・C

㉛ 内容目標 A・B・C
㉜ 態度目標 A・B・C

㉝ 内容目標 A・B・C
㉞ 態度目標 A・B・C

㉟ 内容目標 A・B・C
㊱ 態度目標 A・B・C

㊲ 内容目標 A・B・C
㊳ 態度目標 A・B・C

㊴ 内容目標 A・B・C
㊵ 態度目標 A・B・C

㊶ 内容目標 A・B・C
㊷ 態度目標 A・B・C

㊸ 内容目標 A・B・C
㊹ 態度目標 A・B・C

㊺ 内容目標 A・B・C
㊻ 態度目標 A・B・C

㊼ 内容目標 A・B・C
㊽ 態度目標 A・B・C

㊾ 内容目標 A・B・C
㊿ 態度目標 A・B・C

光村図書 国語2「情報社会を生きる」の発展的な学習として作成した単元「新聞記事を比較しよう～オリンピック開幕の記事を比べて読む～」生徒用ワークシート

3 成果と課題

(1) 成果

22（令和4）年1月調査では、新聞を読むと答えた生徒は5.3%で1.5ポイント、「週に1回以上」までを合わせても、「読む」とした生徒は5.3ポイントアップした（グラフ7）。ニュースを「ほぼ毎日確認する」とした生徒は44.7%で1.3ポイントの上昇、「一週間に2、3日以上確認する」も28.1%

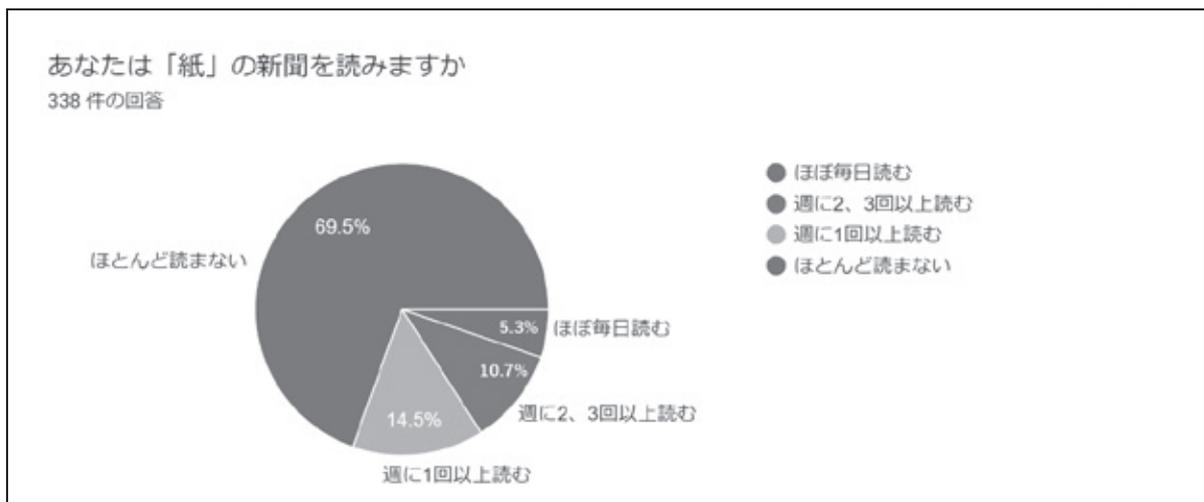
と5.5ポイント上昇しており、「確認する」全体で6.8ポイント上昇した（グラフ8）。新聞を購読している家庭は73.4%（グラフ9）でポイントアップした。保護者の中からは「読書量は決して少なくないが、わが子の説明文を読み解く力に課題がある。家庭では新聞を取っていないため、日々新聞に触れさせることの重要性を改めて考えている」との声も聞かれた。ただ、学校の取り組みを通じて新聞を取るようになった家庭が増えたと単純に見るだけではなく、家庭の新聞購読の状況を知らなかった生徒が、今年度の取り組みを通じて新聞購読していることを認識した数も含まれる可能性が考えられる。いずれにしても、生徒が新聞に目を向けるようになったために得られた変化である。生徒が社会に触れるツールとしては依然としてテレビが多く66%、新聞で情報を得ると答えた生徒も2.1%の横ばいであった（グラフ10）。社会に対する関心は、「ある」「どちらかといえばある」を合わせると76.6%で、2.4ポイントアップした（グラフ11）。最も関心があるニュースでは、第一に「コロナウイルス」、次いで「スポーツ」が上がることは変わらないが、「政治・経済」への関心が「芸能」を上回った。また、東京2020の終了と共に、「オリンピック」への関心が薄れた（グラフ12）。

朝新聞や新聞スクラップに取り組んだ成果として、41.1%の生徒が「世の中の出来事に興味を持つようになった」と回答しており、これは大きく抜きん出ている。続いて「社会には意見は一つではなく、いろいろなものの見方や異なる意見があることがわかった」（26.6%）、「漢字や言葉の知識が広がった」（26%）、「いろいろな種類のニュースを読むようになった」（25.4%）などの解答が続いた。（グラフ13）

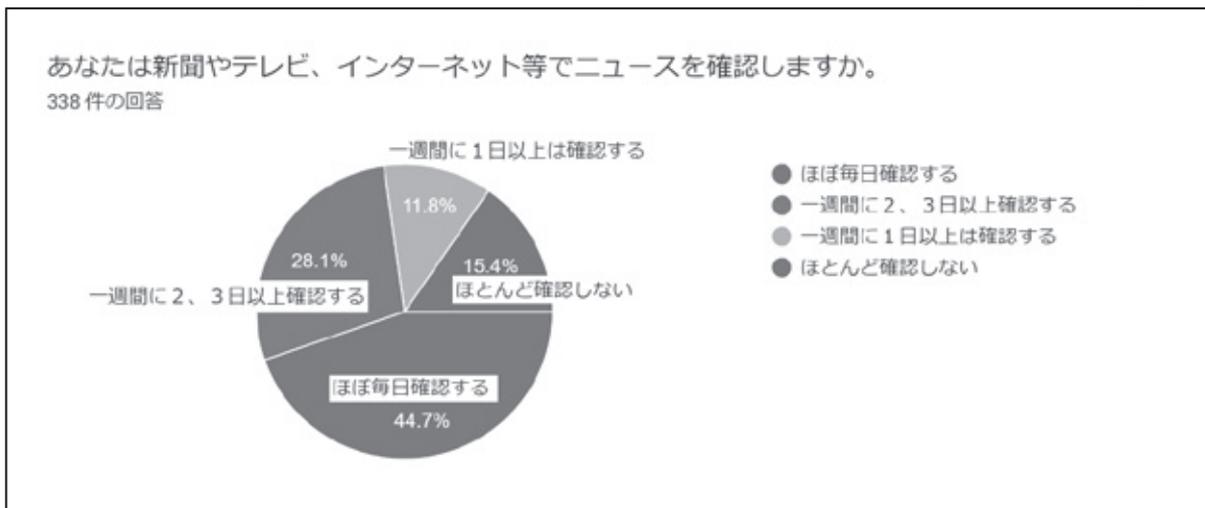
また、学級担任らの印象として「新聞スクラップのための記事に、文章の長いものを選択するようになった」こともあげられている。生徒アンケートからその理由を推察すると、新聞を通して世の中に目が向き、多様な記事を読むようになったこと、文章を読むことに慣れたこと、新聞がどのように編集されているかを知り、需要の多いニュース（トップ記事など）を読もうという意欲をもつようになったことなどが考えられる。

また、1月の調査では、7月の調査の有効回答数を下回ったが、これはコロナウイルスによる休校が相次いだためである。全校生徒の約7割から回答を得ており、データとして一定の信頼性はあるものと考えている。

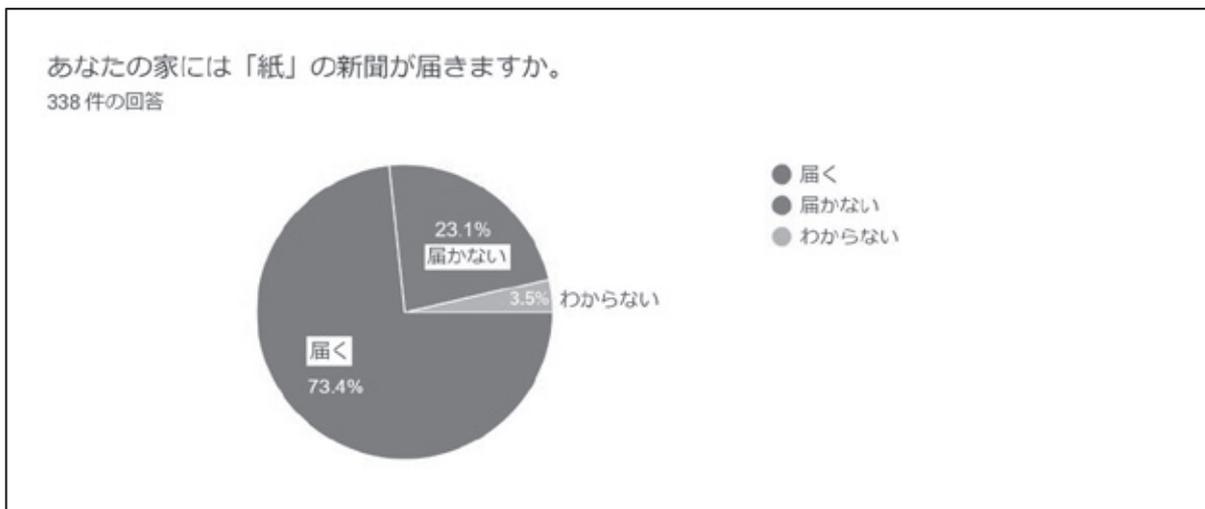
グラフ7



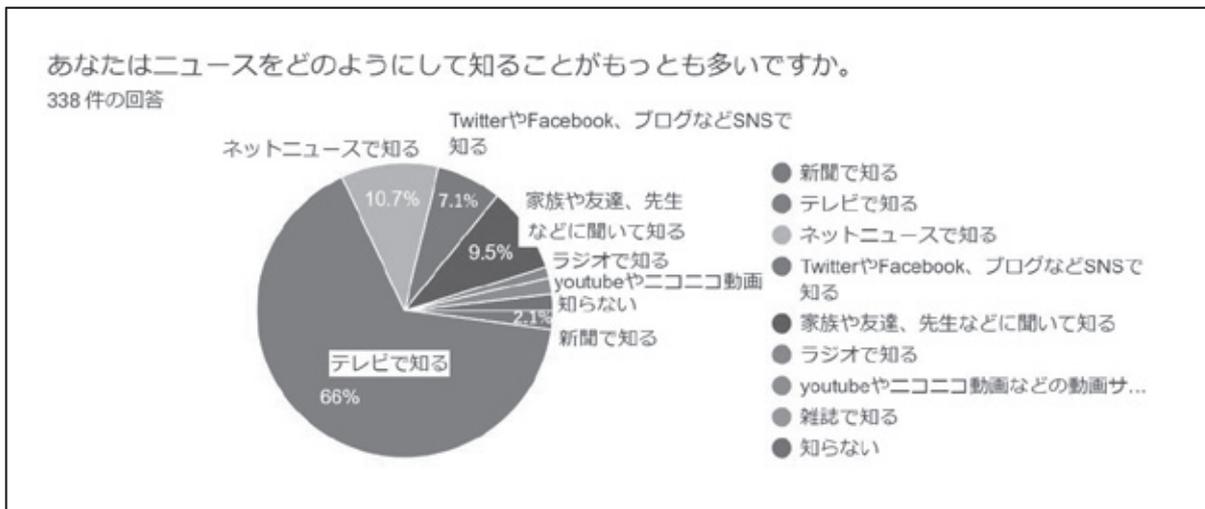
グラフ8



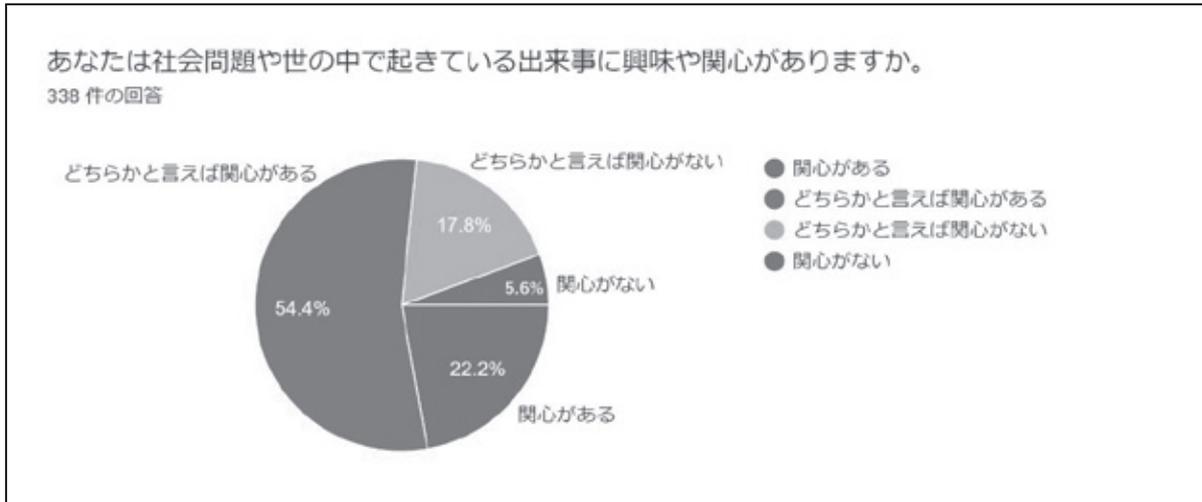
グラフ9



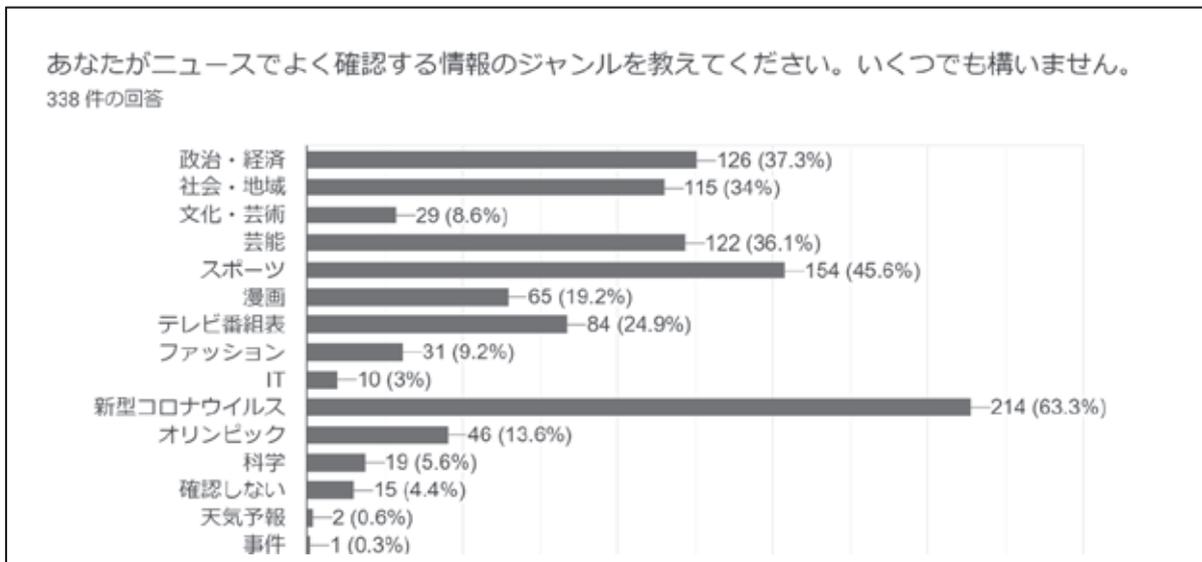
グラフ10



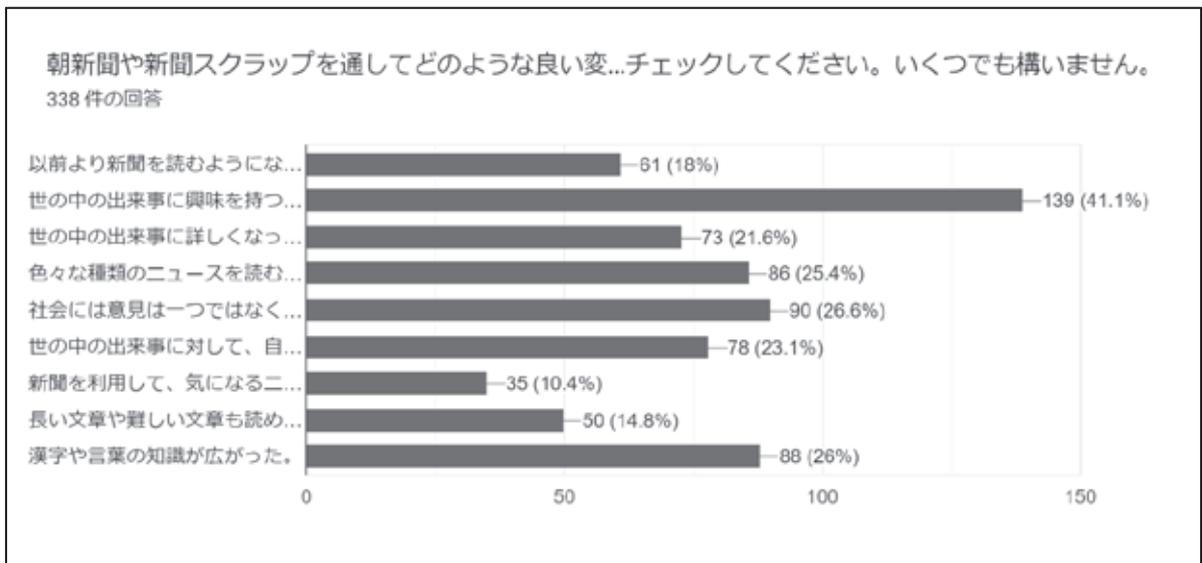
グラフ11



グラフ12



グラフ13



(2) 課題

取り組みを通じて新聞への関心が高まり、目に見える効果があったと共に、本校の生徒の生活における新聞文化は、決して高いとは言えない状況がある。一人1台端末が支給され、意欲的かつ効果的に学ぶためのハード面は整いつつある一方で、AIによって選別された特定のコンテンツのみが目の前に広がり、多様な情報を多角的に分析し、自己の生き方につなげていくというソフト面では課題も多い。

朝新聞の効果は大きいですが、ただ与えるのみならず、その新聞の読み方、分析の仕方、活用の仕方を指導していくことが望ましい。学習集団としての生徒が、新聞への関心や、新聞を通して世の中への関心を高めたのは、授業の中で新聞を活用し、効果的に学習を展開した後に多かった。新学習指導要領でも、各教科、各領域で情報の扱い方の指導、授業への新聞の導入などに言及している。今後は多様な教科で新聞を活用した授業の展開に取り組む必要がある。

また、それらを文化として根付かせるためには、取り組みをいかに継続させていくかが課題となる。軽度な負担で効果を実感できるものや、多少の負荷があっても達成感の大きいものなど、本校に合った取り組みを開拓・精査していくことが重要である。

岩美高等学校 NIE の取り組み

鳥取県立岩美高等学校 栗原 由紀子

1 はじめに

本校は、2021（令和3）年度も引き続きNIE実践指定校となり、20（令和2）年度に続いて地歴・公民科の授業を中心に新聞を活用した授業を行った。そこで、21年度の本校の取り組みテーマとして、20年度の反省を生かし、①他教科との連携授業も行い、多くの先生方に新聞を取り扱った授業を行ってもらうこと、②昨年度の取り組みで効果があったものを、引き続き実践することの二つに設定した。

2 実践の概要

(1) 岩美町について深く知ることができる記事や岩美高生の活躍を載せる掲示板の確保（職員玄関前と生徒玄関前）



▲生徒玄関前に置かれた岩美町、岩美高生関連の記事

生徒がよく通る場所や目の付くところに、高校総体で活躍した生徒の新聞記事などを貼り出した。これをきっかけに、生徒が自ら図書館に行き、新聞を読むことがあった。また、同級生や同じ高校の友人の活躍が新聞に掲載されたことによって、「次は自分も頑張りたい」という気持ちになり、生徒同士でよい刺激を得ていた。同時に本校への誇りや愛着を持つことにもつながり、非常に良い取り組みであった。23年度以降も継続したい。

(2) 時事問題を取り上げた生徒のプレゼンテーション活動（現代社会）

現代社会の授業では、毎時間、事前に生徒に興味・関心のある記事を選ばせ、その記事を要約し、分からない語句などを調べ、感想を書いて授業の始めに発表させている。この中で、生徒はクラスメイトの発表を聞いて、自分の意見を考え、意見交換し、多面的、多角的な視野を持つことができるようになりつつある。また、22年度は、じっくりと新聞を読む機会を作ろうと思い、自分の選んだ記事の要約、感想を書いたものを友人同士で意見交換し、思考力を深めたものを表現する授業を行った。12月に行われる保護者懇談では、それらの記事を貼り出し、多くの先生方や保護者にも見ていただいた。



重要な部分にマーカーを引いて理解を深める



お互いに意見交換する様子



友人の発表を真剣に聞く様子

(3) 国語科との連携

他教科と連携によって、生徒の思考力、表現力、判断力をより高めていきたいと思い、新聞読書コンクールに応募する生徒を対象に国語科との連携授業を行った。国語科担当教員には、小論文の書き方について生徒に説明していただいた。地歴・公民科では、授業の中で新聞記事をじっくりと読ませ、内容について詳しく解説し、反論記事を紹介するなど、生徒の意見をより深めていった。その結果、21年度に比べて内容の深い記事が書けるようになり、このたび新聞読書コンクールで優秀賞を獲得する生徒も出てきた。他教科との連携を図ることにより、昨年度はなかなか自分の意見を書けなかった生徒も、自ら考えや意見を深め、それを表現するために、積極的に図書館に行って本やインターネットで調べたりするようになった。



国語科の先生の授業で、新聞を読みながら文章の構成を考える生徒の様子

(4) 時事問題に関する新聞作成（発展地理B）

発展地理Bの授業では、課題探究として、食料問題、人口問題、都市・居住問題などから生徒が興味関心のある内容を一つ取り上げ、それぞれの問題と解決策について、本やインターネットで調べた内容を新聞にまとめる活動を行った。最初は、本やインターネットに書いてある内容をそのまま丸写しする生徒が多かったが、新聞に書き切れない状況が生まれた。読み手に分かりやすく、必要な内容を厳選し、読み手に課題について関心を持ってもらうためにはどうすればよいのかを考えるようにアドバイスをした。その結果、資料の内容を読みこなし、うまくまとめる力が身につく、精選された文章を書くようになった。文章力そのものも向上した。



(5) 学校新聞の作成

今年度は、文芸同好会の生徒とともに岩美町や岩美高校を盛り上げるために、岩美高校新聞を発行した。特に21年度中止になった高校総体を盛り上げるために、運動部の生徒を中心にインタビューを行い、激励のメッセージを添えた新聞を発行した。



(6) 図書館との連携（新聞機能の周知及び情報リテラシーの育成補助）

毎日届く新聞は、図書館の新聞閲覧コーナーを設置して、自由に生徒が閲覧できるようにした。新聞の1面の読み比べをすることができた。

湯梨浜学園の取り組み

湯梨浜学園 NIE担当
大西 圭

(1) 取り組み初めから現在まで

本校は、NIE教育を取り入れて6年目。実践校に認定されたのはこれが2度目である。この間、教員だけでなく、生徒がNIEを使った取り組みを自主的に行うようになってきた。この度は、その取り組みの一部を紹介させていただく。

(2) 世の中とつながること

新聞は自分と社会との接点を感じる窓口である。新聞から、「授業で学習していることは、自分の身近な社会で、実際に起きているんだ」「自分にも関わるんだ」「自分と世界はつながっているんだ」ということに気付けることができる。

また、実際に社会に生きる人々のたくさんの生きざまに出会うこともできる。しかも、とてもタイムリー。コラムなども、社会には多様な見方・考え方があることを知り、今までとは異なった視点から物事を見たり考えたりして自分の考えを深めるヒントになる。

それを知るには、まず新聞に親しんでもらうことから始めなければならない。そこで、私たちは「朝新聞」を実施することにした。朝の5分間に新聞を読み、地域の話題やスポーツなど、さまざまなニュースに目を通し、見聞を広げると共に、活字離れを防ぐことを目的にしている取り組みである。記事内容の一つ一つが各教科への関連性があるとして、授業の一環として取り入れ、中には、その場で生徒に1分間スピーチに取り組ませるクラスもあった。



生徒からも、「5分で読まなければならないので、自然と集中して入り込んで読める」「見出しを追って情報を効率よく集めようとする習慣がついた」「新聞を家でも手に取って読むことが習慣となり始めた」という声を聞くことができた。

(3) 新聞から学ぶ

「新聞スクラップ」を取り入れた6年前は、何を書いてよいのか分からない生徒が多く、なかなか筆が進まなかったが、新聞を切り抜き、貼る活動はそれだけで楽しく、新聞記事を自分だけのものにしていく実感がある。まずはそこからだった。

新聞には、さまざまな種類の文章が載っている。その中には、学習や日常生活に直接役立つ

つ文章が多くある。記事には、「5W1H」が的確に表現されているので、最低限必要な情報を整理し、人に意見を伝える論文のためのよい教材となる。また、記事のいわゆる逆三角形の構造からは、自分の考え（結論とその根拠）をわかりやすく人に伝える学習が可能である。

このように新聞の記事を活用し、自分で考えることに気付いてからは、生徒たちは自分の言葉に敏感になり、文章を吟味しながら、実際に日常の中で用いる表現力を身に付けていった。生徒の中には家族で新聞記事について話し合う者まで出始めるようになった。家族でできる活動を工夫すると、コミュニケーションの場ができる。このような効果も新聞にはあるということを知った。

(4) 興味・関心を伸ばす

生徒の興味・関心を伸ばすことも継続して行った。「テレビ欄は見る」、「スポーツ欄は面白いよね」。そのような声をよく耳にしていた。それらに共通していること、それは、「興味がある」ということ。興味があるから読む。そこで、自分の学校のことが掲載されていた記事を玄関に掲示することから始めた。貼り始めてすぐに効果が出た。玄関横を通る生徒が必ず一読をするのである。このような見える形で掲示するとこれまで以上に読む。何とも不思議なものである。また、記事を更新すると、その変化に生徒は気が付く。

(5) 生徒主体の取り組みとして

生徒自らの発案での取り組みも増えた。図書委員では「図書委員が選ぶ今日の1面」、保健委員では「今週の医療ニュース」を選ぶという取り組みである。いずれも生徒が主体となつての取り組みなので、普段から新聞記事を読む習慣がないとそもそも仕事ができないということがポイントである。そして、その活動は6年たち、生徒が自主的に活用し、今ではお昼の放送で、「図書委員会の紹介する新聞記事」といったコーナーを設け、紹介するほどになった。全てを教員が教え、導くのではなく、自主的に動けるようにする取り組みの重要性を感じた。





NIE全国大会

Newspaper in Education



2021

札幌大会

テーマ

新しい学びを創るNIE
〜家庭、教室、地域をむすぶ〜

配信期間

2021.8.16月▶11.30(火) (予定)

オンライン中継

2021.8.16月

全体会(開会式・基調講演・パネルディスカッション)

オンデマンド配信

2021.8.16月から配信

全体会(開会式・基調講演・パネルディスカッション) 手話通訳対応あり
分科会(公開授業・実践発表)



参加申込

期間 2021年7月5日(月)～8月31日(火)まで

参加料金

(資料集、送料・税込)

新聞関係者/2,500円

教育関係者・一般/1,000円

大会の詳細・
参加申し込みは



お知らせ / 新型コロナウイルス感染防止のためインターネット配信により大会を実施します。

【主催】一般社団法人日本新聞協会 【共催】北海道教育委員会、札幌市教育委員会 【後援】文部科学省、日本NIE学会、文字・活字文化推進機構、全国学校図書館協議会、北海道小学校長会、北海道中学校長会、北海道高等学校長協会、札幌市小学校長会、札幌市中学校長会、北海道私立中学高等学校協会、北海道PTA連合会、北海道高等学校PTA連合会、札幌市PTA協議会、北海道高等学校文化連盟、日本教育公務員弘済会北海道支部 【主管】北海道NIE推進協議会、北海道新聞社

お問い合わせ | NIE全国大会札幌大会実行委員会事務局 [北海道新聞社 NIE推進センター内] TEL.011-210-5802 FAX.011-210-5826 E-mail nie@hokkaido-np.co.jp

NIE全国大会2021札幌大会

大会スローガン／新しい学びを創るNIE～家庭、教室、地域をむすぶ～

■日時 2021年8月16日（月）14：00～

■場所 札幌文化芸術劇場 hitaru ※オンライン開催

司会 古崎 可純さん（札幌北高等学校3年）

山田 涼平さん（札幌日本大学高等学校3年）

■全大会

開会式（14：00）

あいさつ 丸山 昌宏 日本新聞協会会長

倉本 博史 北海道教育委員会教育長

檜田 英樹 札幌市教育委員会教育長

歓迎のことば 宮口 宏夫 北海道新聞社代表取締役社長

基調提案 菊池 安吉 NIE全国大会札幌大会実行委員長

基調講演（14：40）

「歴史と出会う－新聞という回路」 梯 久美子氏（ノンフィクション作家）

パネルディスカッション（16：25）

※家庭、地域、学校という立場から「新しい学び」に関して議論

司会 松本 裕子氏 フリーアナウンサー

パネリスト

田中 賢介氏 田中学園理事長、元北海道日本ハムファイターズ選手

内山 佳奈氏 アスパラの生産農家

古畑 理絵氏 札幌藻岩高等学校教諭

為国 結菜さん、浜田 亮太さん 札幌藻岩高等学校2年

鈴木 翼氏、鈴木 桃子氏 夫妻

■分科会（公開授業・実践発表・特別分科会）

オンデマンド配信期間 8月16日（月）～11月30日（火）

※分科会プログラム詳細次頁

主催 日本新聞協会

共催 北海道教育委員会、札幌市教育委員会

主管 北海道NIE推進協議会、北海道新聞社

分科会プログラム

| 種別 | 分科会名 | 分科会名 |
|--|---|---|
| 公開 授業 | ① 小学校 国語科 「資料をもらって文章の効果を考えそれを生かして書こう」 「固有種が教えてくれること」クワアや表をもちいて書こう」 札幌市立桑園小学校/授業者 夏井彰教諭 | ② 小学校 道徳科 目標に向かって(希望と勇気・努力と強い意志) 札幌市立栄南小学校/授業者 上野裕子教諭 |
| | ③ 小学校 社会科 「武士の世の中へ」 札幌市立中央小学校/授業者 中里彰吾教諭 | ④ 中学校 国語科 説得力のある文章の工夫 札幌市立真栄中学校/授業者 遠藤翔太教諭 |
| | ⑤ 中学校 社会科 地理的分野「北海道地方」～豊かな自然を生かした観光～ 日本新聞協会NIEアドバイザー・札幌市立真駒内中学校/授業者 山田耕平教諭 | ⑥ 高等学校 情報科 「コミュニケーション」～インターネットを利用したサービス 北海道恵庭北高等学校/授業者 楠雄一教諭 |
| | ⑦ 高等学校 総合科 総合的な探究の時間「探究活動発表」 日本新聞協会NIEアドバイザー 北海道札幌南高等学校/授業者 長尾良平・田畑広樹教諭 | ⑧ 中学校 道徳科 尊い命をつなげる(生命の尊さ) 札幌市立あやめ野中学校/授業者 近野秀樹教諭 |
| | ① 北海道の食に関する学習とNIE 小学校社会科「私たちの生活と食料生産」～これからの食料生産とわたしたち～ 札幌市立山の手南小学校/授業者 沢田教諭 | ② 北海道の食に関する学習とNIE 中学校社会科「現代社会の特色と私たち」 音更町立緑南中学校/発表者 掛水成幸教諭 |
| | ③ 小規模校のNIE 「何が出来るようになるか」着質・能力の育成を目指して ～布部小学校における新聞製作の取り組みを通して～ 富良野市立扇山小学校/発表者 伊藤静香教諭 | ④ 中学校 国語科 言語活動とNIE 「三年間の歩みを振り返ろう」 札幌市立北都中学校/発表者 田中大地教諭 |
| | ⑤ 道徳学習とNIE 小学校道徳科 「道徳教育における新聞活用の可能性を探る」～素材から教材化への提案～ 日本新聞協会NIEアドバイザー・苫小牧市立日新小学校/発表者 矢島薫教諭 | ⑥ 金融学習とNIE 高等学校探究基礎「金融リテラシー」 札幌新陽高等学校/発表者 高石大道教諭 |
| | ⑦ 特別支援学校 学級におけるNIE 高等学校公民科「肢体不自由特別支援学校における主権者教育」 岩見沢高等養護学校/発表者 曳田和樹教諭 | ⑧ 特別支援学校 学級におけるNIE 中学校社会科「SDGsと私たちの暮らし」 札幌市立藤野中学校/発表者 三上毅朗教諭 |
| | ⑨ 地域学習とNIE 中学校社会科 地理的分野「日本の地域的特色と地域区分」 歴史的分野「日本列島における国家形成」 日本新聞協会NIEアドバイザー・函館市立亀田中学校/発表者 川崎裕介主幹教諭 | ⑨ 地域学習とNIE 中学校社会科 地理的分野 「北海道地方」～自然環境を中心に考えよう～ 釧路市立青陵中学校/発表者 柳沢脩介教諭 |
| | ⑩ アイヌ文化学習とNIE 中学校社会科 地理的分野「北海道地方」～自然環境を中心に考えよう～ 公民的分野「私たちにできること」 新ひたか町立三石中学校/発表者 川上知子教諭 | ⑩ アイヌ文化学習とNIE 高等学校現代社会「アイヌ民族の格差問題」 北海道北見北斗高等学校/発表者 山崎辰也主幹教諭 |
| ⑬ 英語学習とNIE 「教育環境づくりに寄与する学校図書館」～英語教育環境づくりの取り組み～ 小樽市立桜町中学校/発表者 渡辺雅代 学校司書 | ⑬ 英語学習とNIE 「テーマに関する新聞記事を読み、互いの意見を発表し合おう」 小樽市立青園中学校/発表者 山崎史朗教諭 | |
| ⑮ 学校図書館とNIE 小中高名教科 学校諸課題となつながら、学びを広げるNIE～学校図書館が主体的に行う実践～ 札幌市立北郷小学校・手稲中学校・稲穂中学校・北海道七飯高等学校 発表者 山田佳子司書教諭・浅村麻理子 学校司書・加藤孝志 司書教諭 | ⑮ 英語学習とNIE 「テーマに関する新聞記事を読み、互いの意見を発表し合おう」 小樽市立青園中学校/発表者 山崎史朗教諭 | |
| ① 炭鉄港 中学校社会科 日本の産業基盤を築いた日本遺産「炭鉄港」 授業者＝美唄市立美唄中学校/唐糠昌弘教諭 パナソニック 炭鉄の記憶推進事業団/吉岡宏高氏、北海道新聞社/山口真理絵記者 | ② GIGAスクール時代におけるNIEとICT 「過去、現在、未来をむすぶ、新聞教材の可能性～1人1台端末を活用した新しい学び～」 放送大学/発表者 中川一史 教授 横浜市立荏子田小学校/発表者 浦部文也教諭 | |

第26回NIE全国大会・札幌大会(オンライン開催)に参加して

大会スローガン：新しい学びを創るNIE～家庭、教室、地域をむすぶ～

(2021年8月16日・北海道札幌市)

歴史観養う新聞の価値

■鳥取県NIE推進協議会会長（米子工業高等専門学校教授）加藤 博和氏



NIE全国大会は2年連続でオンライン開催となった。コロナ禍が長期化している。札幌に行けないのは残念であったが、米子に居ながらオンデマンドで視聴できるのは有り難い。

基調講演の講演者は梯久美子氏。デビュー作「散るぞ悲しき 硫黄島総指揮官・栗林忠道」。陸軍軍人である栗林中将が硫黄島から大本営に打った決別電報が、改ざんされた内容で当時の新聞各紙に掲載されていた事実を知り、「これは私が訂正記事を出さなければいけないと思った」と、その執筆の動機を語られた。

「原民喜 死と愛と孤独の肖像」は、広島で被爆した作家で詩人でもある原民喜の評伝。遺品を収蔵している広島市立中央図書館で遺書の現物を見た同氏は、同中央図書館が被爆地の図書館であるということに自覚的で、開かれた図書館であり、積極的に資料を公開していることに言及された。

また、中国新聞社の運営するウェブサイト「ヒロシマ平和メディアセンター」は、原爆に関する記事が充実していて無料で読めるのが素晴らしいと力説されていた。教育現場で活用できる、過去記事のアーカイブでアクセスしやすいものを、各新聞社が横断的につくってほしいという、同氏の意見提言に賛同する。

新聞を通じて、ウィズ・コロナ、アフター・コロナを考えていきたい。そして、コロナがどのように報じられ、どんな時代だったのか－歴史観を養う上で、やはり新聞が価値を持つものといえるだろう。

望まれる新聞データ化

■鳥取県NIE推進協議会アドバイザー 岩井 克之氏



コロナ禍のため、今年度もオンラインでの開催となった。オンデマンド配信されるので、大会内容をデータとして何度も視聴できた。

講演では、図書館で新聞を検索・閲覧して調べる中で新しい事実・歴史を発見した体験を聞いた。

長いスパンで物事を捉え、歴史観を養うために新聞は有用なツールである。また、地方新聞社ならではの地域のテーマで閲覧できるデータベースがあれば、教育に有効であると提案された。

分科会では、学校図書館において複数の新聞資料を準備し、授業を支援した実践がいくつか報告された。

一つのテーマや言葉で新聞記事を検索・閲覧することができたら、より一層深い学びに生かされるのではないかと思われる。新聞記事のデータベースやデータ共有を可能にするシステムづくりは膨大な予算や労力が必要だが、新聞社、図書館、学校図書館などが連携協力して、新聞のデータ化を進めてほしいと考える。

生きた言葉に出会える

■南部町立会見小学校教諭 勝部 陽子氏



オンデマンド配信となった全国大会。

札幌市立栄南小の道徳科の授業を視聴し、児童の心にどンドンゆさぶりをかける先生の声掛けや、「もっと続きをしたい！」と生き生きと学びを深めている児童の姿から多くを学んだ。

授業では、パラリンピアン谷真海さんが、病気で足を切断することによる苦悩を乗り越え、装具士の方との出会いをきっかけに、新たに見いだした夢に向かって努力を続ける姿から学ぶ。

「谷選手が手に入れた大切なものとは？」というテーマについて意見を深め合う中、谷選手の新聞記事を読む児童。そこには「つらくてうまくいなくても、どうしてやめずにがんばれたのか」という谷選手の思い、支えとなった母の言葉があった。

「本物の言葉・生きた言葉」に出会える新聞。新聞記事を活用することで、児童の考え方を刺激し、心に残る授業をしていきたいと実感した。

地域知る一番の情報源

■鳥取市立桜ヶ丘中学校教諭 徳永 絵里氏



NIE全国大会では、担当教科である社会科の実践を視聴した。共通していたのは、新聞は地域を知るための一番の情報源であるということだ。

世の中にはさまざまな情報が溢（あふ）れている。しかし、自分たちの住む地域についての、正しく、詳細な情報を得るには、新聞が一番なのではないかと思う。授業実践では、自分たちの住む地域について、問題提起や、意見を示す上での根拠として、新聞が有効に活用されていた。身近な話題は、生徒の興味、関心を引きやすい。新聞を意欲的に読み込んでいこうとする生徒の姿が印象的だった。

語彙（ごい）力・読解力の習得、視野の広がりから養われる社会意識。新聞を読むことで得られる力は多様で大きい。新聞を読むことを通して、地域について深く考えることができる生徒を育てていきたい。

時代の姿ありのままに

■鳥取県立岩美高等学校教諭 栗原 由紀子氏



岩美は、ジオパークだから地層には事欠かない。地層は冗舌であり、その時代の気候、生物や地形を語ってくれる。

新聞はまさに地層だ。県立図書館にペンとノートを持って発掘に行き、新聞のアーカイブスのページを開いた瞬間に、その時代がありのままの姿で飛び込んでくる。それは、現在と地続きのこともあれば、私たちの常識と乖離（かいり）し、「ここは昔、海だった」と言われて戸惑う感じと似た印象を持つこともある。

「かつての新聞に、被爆時に女性がかわいいワンピースを着ていたという記事があった。でも、そのような日常にも原爆が落ちた」という趣旨の発言が基調講演の中であったが、新聞にはそういう小さな石片が隠れており、案外それがその時代全体を表している。

書庫には、層を成した紙幅が堆積している。いつの時代、どの記事にタイムスリップするのか、生徒と共に思いを馳（は）せてから、いざ、「宝探し」の旅に出発してみよう。

つながりに気付き学ぶ

■湯梨浜学園中学校高等学校教諭 大西 圭氏



ある実践発表が私の心を軽くしてくれた。それは「国語の問題をつくろう」という発表である。

今の教育活動に求められるものの中に、教科横断的な取り組みが挙げられる。これまでは、国語という教科にのみ焦点を当てて指導すれば解決できた問題でも、現在は教科の枠を超えての活動、そしてその先にある教科と世の中をつなげる学び指導が求められる。

この取り組みの中で、新聞という身近なものを活用したことで、子どもたちが主体的に、笑顔で社会とつながりながら学べるようになってきている姿があった。

子どもたちには、自分の興味関心が思ってもいない分野につながっているということに気が付き、喜びをもって学習してもらいたい。そのためには、まずわれわれ教員が、子どもたちに情熱をもって学ぶ喜びを教えることが求められる。

この大会を通して、新聞の活用法だけでなく、教育に必要なものを改めて教えられた。

鳥取県N I E推進協議会 会則

(目的)

第1条 鳥取県N I E推進協議会（以下、協議会という）は、NIE（Newspaper in Education）の略称にちなみ、教育界と新聞界が協力し、新聞を生きた教材として活用し、現代社会に対応した情報能力を育成する教育を進めていくことを目的とする。

(事業)

第2条 協議会は前条の目的を達成するため次の事業を実施する。

- (1) N I E実践校・実践者を日本新聞協会に推薦すること。
- (2) N I E実践校・実践者への研究補助に関すること。
- (3) N I Eに関する研究会を開催すること。
- (4) N I E実践・研究成果の紹介や普及に関すること。
- (5) そのほか必要と認めたこと。

(構成)

第3条 協議会は次に掲げる者で構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) 鳥取県教育委員会
- (3) 市町村教育委員会教育長会
- (4) 鳥取県小学校長会
- (5) 鳥取県中学校長会
- (6) 鳥取県高等学校長協会
- (7) 鳥取県私立中学高等学校長会
- (8) N I E実践指定校
- (9) 日本新聞協会
- (10) 朝日新聞社鳥取総局
- (11) 毎日新聞社鳥取支局
- (12) 読売新聞社鳥取支局
- (13) 産経新聞社鳥取支局
- (14) 日本経済新聞社鳥取支局
- (15) 中国新聞社鳥取支局
- (16) 山陰中央新報社鳥取総局
- (17) 新日本海新聞社
- (18) 共同通信社鳥取支局
- (19) 時事通信社鳥取支局

(役員)

第4条 1、協議会に次の役員を置き、総会で会員の中から互選する。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 幹 事 若干名

(4) 監 査 2名

2、役員任期は事業年度の期間とする。ただし再任は妨げない。

3、役員任務は次の通りとする。

(1) 会長は協議会を代表し、会務を総括する。

(2) 副会長は会長を補佐し、会長が欠けたときは副会長の1名が職務を代行する。

(3) 幹事は会務を処理する。

(4) 監査は会計を監査する。

(総会)

第5条 1、協議会は、事業計画そのほか運営に関する重要な事項を決定するため毎年1回定期総会を開くほか、次の場合に開催する。

(1) 事業の実施状況の報告。

(2) 会長が特に必要と認めたとき。

2、総会は会長が招集し、その議長となる。

(委員会)

第6条 特定事項について検討審議するため、委員会を置くことができる。

(経費)

第7条 協議会の運営に関する経費は、会員新聞社・通信社の拠出金および個人、団体などからの補助金、その他の収入を充てる。

(事務局)

第8条 協議会の事務局は新日本海新聞社内に置く。

(事業年度)

第9条 協議会の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(補足)

第10条 会則の変更は総会の議決を経なければならない。この会則に定めのない事項は、会長の承認を経て委員会に諮り決める。

(付則)

1 会員新聞社・通信社の拠出金は当面、新聞社が1社年額6万円、通信社が1社年額3万円とする。

以 上

「出前授業」 募集のご案内

鳥取県 NIE 推進協議会は、県内の小中高校を対象に新聞記者を講師として派遣する「出前授業」を行っています。

新聞を教材として「新聞の基礎知識」「新聞の読み方」「新聞編集」「新聞記者の仕事」などについて授業を行うほか、新聞記事の作成体験などを通して、児童生徒に知識や技術を伝えていきます。

※内容は一部変更となる場合があります。



出前授業のお問い合わせ・お申し込み

鳥取県NIE推進協議会事務局(新日本海新聞社読者センター内)

電話0857(21)2877(9:30~17:00、土日祝除く)



教育に新聞を
Newspaper in Education

発行2022年6月28日

鳥取県NIE推進協議会

事務局

〒680-8688 鳥取市富安2丁目137番地
(新日本海新聞社読者販売局読者センター内)
TEL 0857(21)2877 FAX 0857(21)2891